



京都市総合教育センターカリキュラム開発支援センター
KYOTO×教育DXサポートチーム (DST)

令和7年

DX 通信

(Digital Transformation)

2月号

DST (KYOTO×教育DXサポートチーム) は令和7年の活動をスタートさせました。これまでのDX通信でもお知らせしているように各校を訪問しての研修支援や授業支援に、ロイロノートスクール・Teams・Formsの「操作方法解説ショートムービー」の公開を引き続き行っています。



さて、各校におかれましては、今年度のまとめの時期に差し掛かってきた頃かと思えます。各教科等での振り返りやまとめにGIGA端末の活用も増えるのではないのでしょうか。今年度も残りわずかではありますが、様々な業務が重なるこの時期にDST (KYOTO×教育DXサポートチーム) はサポートの依頼を受け付けています。この紙面上の右下のリンクから申込みフォームにご記入ください。各校にお配りしている「支援・研修 (2月分)」の「申込Forms」、または光京都ネット

から支援申込フォームからでもお申し込みいただけます。ご不明な点やご質問がございましたら、お気軽にお問い合わせください。



支援申込書

ロイロノートスクール・Teams・Formsの「操作方法解説ショートムービー」はこちらのQRコードからご覧になれます。

ショートムービー
QRコード



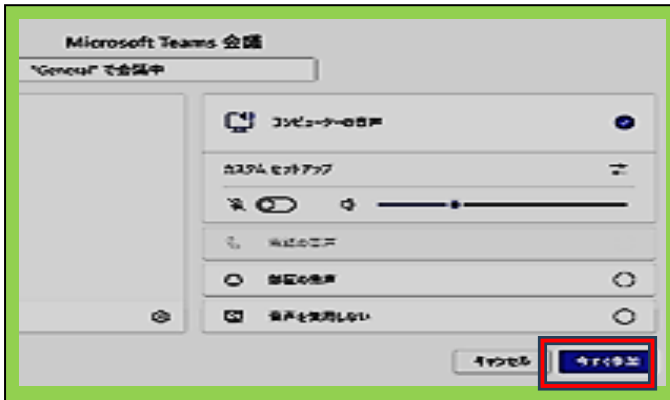


ICT活用今月の一步①

Teams ブレイクアウトルーム 開催者の操作

Microsoft Teams のブレイクアウトルームは、会議中に参加者を小グループに分けて、より集中したディスカッションや作業を行うための機能です。

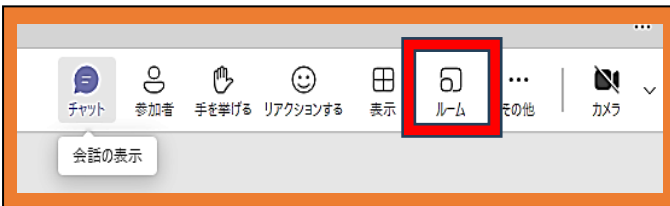
①



Teams で新しい会議を開始するか、既存の会議に参加します。

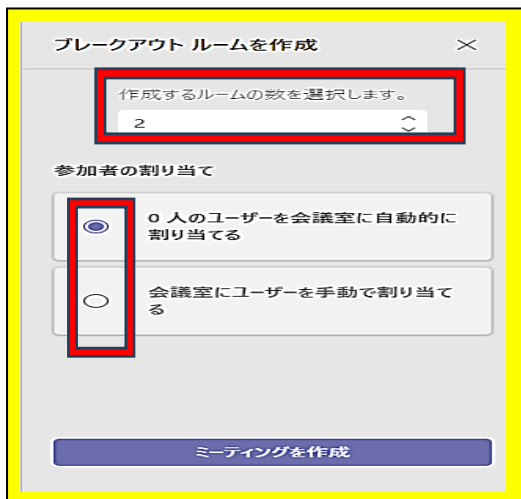


②



会議が始まったら、画面上部ツールバーにある「ルーム」アイコンをクリックします。

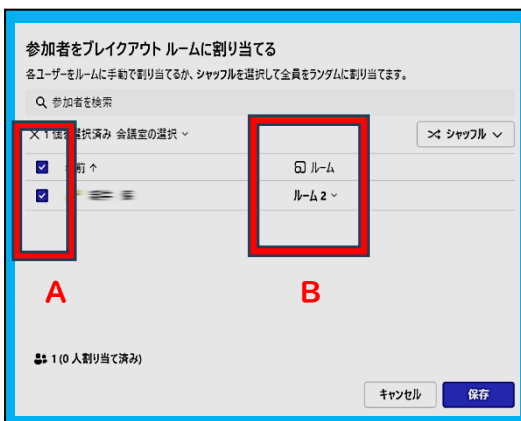
③



ブレイクアウトルームの数を選択します。参加者を自動的に割り当てるか、手動で割り当てるかを選べます。

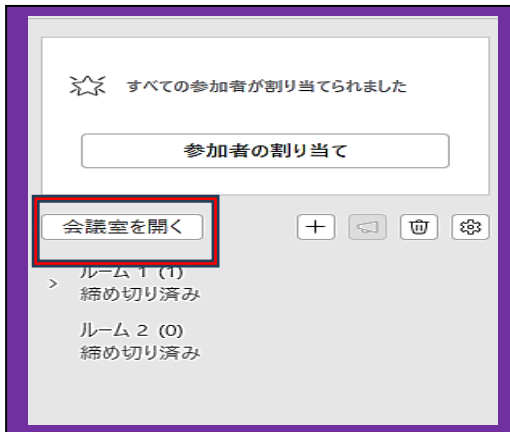


④



自動割り当てを選んだ場合、Teams が参加者を均等に分けます。手動割り当てを選んだ場合、「A」にチェックを入力し、「B」で各ルームに参加者を割り当てます。

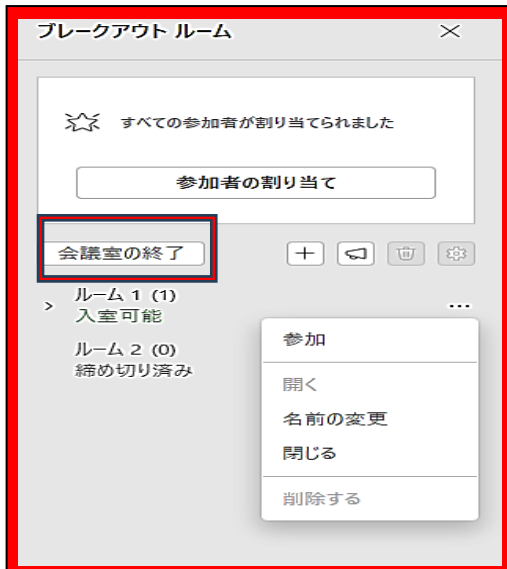
5



すべての設定が完了したら、「会議室を開く」をクリックし、ブレイクアウトルームを開始します。



6



ディスカッションが終了したら、「会議室の終了」をクリックして、参加者をメイン会議室に戻します。
 ※主催者は各ルームを訪問して、ディスカッションの進行状況を確認できます。
 (…から「参加」をクリックする。)

他校との交流によく使われています。小グループを作り、それぞれがブレイクアウトルームで交流します。

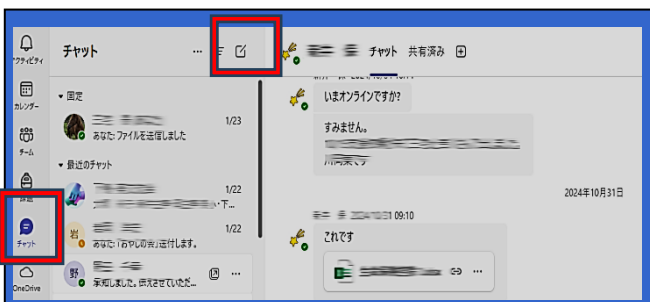


ICT活用今月の一歩②

Teams ビデオ通話を行う方法

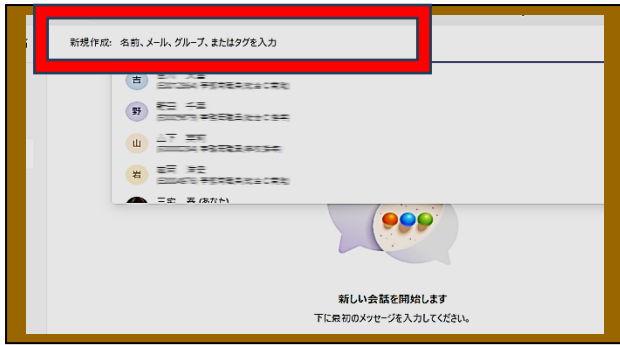
Teams のビデオ通話とは、相手の顔を見ながら話せる通話のことです。

1



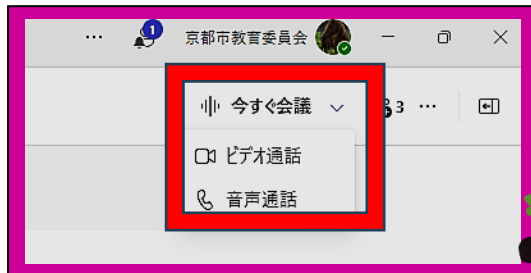
左側のメニューから「チャット」を選択します。次に、画面上部の「新しいチャット」ボタン（鉛筆アイコン）をクリックします。

②



ビデオ通話に参加してほしい人の名前やメールアドレスを入力して、チャットグループを作成します。複数人を追加することができます。

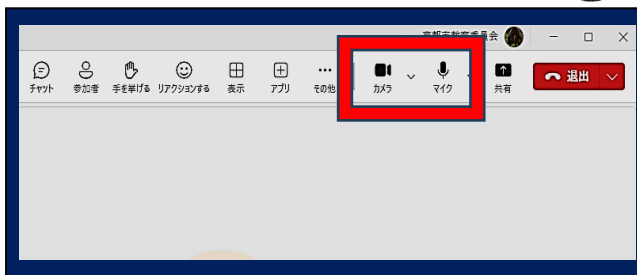
③



チャットウィンドウの右上にある「ビデオ通話」ボタン（カメラアイコン）をクリックします。これでビデオ通話が始まります。



④



通話が始まってから、カメラとマイクの設定を確認します。必要に応じてオン・オフを切り替えます。

⑤



かかってきた人は左のような画面が表示されます。ビデオ通話ボタンをクリックすると話すことができます。



画面共有を使って、効果的にコミュニケーションを取ることもできます。通話中に他の人を追加することも可能です。



支援・研修

☆東山泉小中学校（1月17日：個別研修）

最初に、ロイノート全般について研修しました。提出されたカードの画面配信や返却の仕方、資料箱の使い方などについて説明しました。そして、ミライシードです。まず、児童と同じようにドリルに取り組み、その後、学習状況の確認方法を伝えました。少し多めの内容でしたが、授業で活用できるようにと熱心に取り組まれました。

